



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 2 日（2025 年度のチャレンジプラン）
プラン名	スペシャルキッズと保護者でつくる彩の国防災プロジェクト
実践団体名	NPO 法人二モカカ
代表者名	和田芽衣
電話番号	090-5530-2393
メールアドレス	akaikurumasai10@gmail.com
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	難病および障害のある子を育てる家族会活動が発端の NPO 法人。現在は埼玉県飯能市を拠点にコミュニティカフェの運営、福祉防災のイベント、インクルーシブワークショップ、啓発イベントなどつながりを育める場づくりを通して、難病や障害のある子どもと家族が安心して大人になれる社会を目指して活動しています。
所属メンバー お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	齋藤朝子（福祉防災プロジェクトリーダー 埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校教諭） 大久保奈津子（副代表理事） 和田芽衣（代表理事）
活動の本拠地	埼玉県飯能市
活動開始時期・結成時期	2015 年～任意団体二モカカクラブとして活動開始 2025 年 1 月、NPO 法人二モカカ設立。
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴（チャレンジプラン以外も含む）をご記入ください	・平成 30 年社会福祉法人はなみずき会と共同事業「埼玉県西部地区における未就学時期の難病児子育て応援プロジェクト」実施。 ・平成 29 年～令和元年度ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援による



	<p>助成金を受託実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年～令和6年度埼玉県障害難病団体協議会の加盟団体として、埼玉県小児慢性児童等ピアカウンセリング事業の企画・運営担当 ・令和4～令和7年度埼玉県小児慢性児童等相互交流支援事業の委託を受け、地域交流イベント実施
--	---

プランの基本情報

プランでの実践主体	9. N P O
プランの運営側の人数 (実数)	約3人
プランの活動地域	埼玉県 (飯能市、幸手市、宮代町)、オンライン
プランの防災教育の対象者 防災教育の対象者の主な属性	20. 全ての人々 (小学生以上の)
防災教育の対象者の人数 (実数)	26人 (一般参加者16人、地域ボランティア6人、行政4人)
プランが対象とする災害	9. 災害全般
プランの活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 17. その他 (具体的に: ネットワーク)



	の設立と会議・被災地支援・ボランティア団体登録・防災ガイドブック制作協力)
<p>プランでの連携先</p> <p>プランで連携した相手の属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</p>	<p>1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA</p> <p>6. 消防団 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体</p> <p>9. 公共施設 10. 企業・産業関係 11. ボランティア</p> <p>12. NPO</p>
<p>実践にかかった金額</p> <p>チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください</p> <p>具体的金額を記入するか、選択肢から該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</p>	50万円未満

プランの年間活動記録

※●防災×あそびについての活動、○ネットワーク（TEAM☆のらぼうさい）との活動と分けさせて頂きました。

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	○彩の国防災ネットワーク設立のための調整	○ネットワーク設立に向けた日程調整や会議で使用する資料準備	○彩の国防災ネットワーク改めTEAM☆のらぼうさい設立
5月	○防災ガイドブック制作のため埼玉県との打ち合せ	○ガイドブック制作に向けた参考資料準備	○ガイドブックの内容検討
6月	○彩の国会議参加計画 ○九都県市総合防災訓練 埼玉会場出展	●CP 他団体との打ち合わせ	○ガイドブックの内容検討含む会議
7月		●計画確認	○彩の国会議キックオフ会議開催・登録
8月	○タオルオクルプロジェクト立案	●防災食の内容検討 ○タオルオクルプロジェクト調整	○ガイドブック担当ごとに打ち合わせ ○タオルオクルプロジェクト



		○タオルオクルプロジェクトとしてタオル集め	被災地へ支援物資郵送
9月	●○UniWave 出展打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラム内容決定 ●ポスター校閲・発注 ●後援申請 ●食材購入 ●中間報告準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議（ガイドブック内容確認） ○九都県市総合防災訓練出展 ○彩の国会議参加
10月		<ul style="list-style-type: none"> ●SNS・ポスター配布 ●プログラム物品準備 ●食材購入 ●役所との機材確認 ●タイムスケジュール作成 ●ボランティア説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ●中間報告会参加 ●10/26 第3回防災×あそび実施
11月	○防災イベントにブース出展検討	<ul style="list-style-type: none"> ●○UniWave 団体との打ち合わせ ○ガイドブック文章校正案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返り ●○UniWave 協賛・活動発表 ○TEAM☆のらぼうさい所属団体（特定非営利活動法人NPO にじいろ）防災イベントの協力
12月	○ガイドブック監修の医療者および掲載情報先との連絡調整（埼玉県から）	<ul style="list-style-type: none"> ○校正箇所について他の資料を確認、再度制作 ○デザイン事務所へデザイン案を依頼 	○TEAM☆のらぼうさいメンバーによるガイドブック文章校正
1月	○ガイドブック監修の医療者による最終校正（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドブック再校正 ○デザイン最終校正（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドブック校了入稿（予定） ○会議（予定） ○ガイドブック入稿（予定）
2月			<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドブック完成（予定） ○県内各所へ配布（予定） ○協働型災害訓練参加（予



			定)
3月	○ガイドブック web 掲載 (予定)		○会議 (予定)

実践したプランの内容

必要に応じてセル (表の枠) の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

<p>プラン全体の概要 どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載 写真や図表を入れても構いませんが (文字数には含みません)、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>① 社会的マイノリティであるために、活動の意欲があっても実行できるマンパワーの確保が難しい小児慢性疾患や医療的ケア児者の家族会等の当事者団体の課題を解決するために、埼玉県内の当事者団体等と“TEAM☆のらぼうさい”を設立する。</p> <p>② 3時間という短時間設計だった“防災×あそび事業”を1日規模に拡大し、より特別支援が必要な子どもたちと定型発達の子どもの交流が増えるようプログラムを改善する。</p>
---	--

<p>プランの「チャレンジ」の結果 プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。</p>	<p>障害児者家族による防災ネットワークの構築と交流の深化 小児慢性疾患や医療的ケア児者の家族会等の当事者団体において、防災は関心が高いテーマである一方、推進を担う人材の不足や活動負担の大きさが課題となっていた。各団体による活動は単発・単年度に留まることが多く、これらを継続させ地域に根付かせるための体制づくりが求められていた。 これらの課題を解決するため、二モカカが事務局となり団体を超えた防災ネットワーク「TEAM☆のらぼうさい」を結成し、以下の成果を上げた。 ①団体間連携による情報の還元: LINE グループ等を通じた情報共有により、個々の団体では難しかった防災の知見を互いに補完し、自団体へ還元できる仕組みが整った。</p>
--	--



<p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>②公的機関との連携と発信：埼玉県医療的ケア児等支援センターとの連携を通じ、県の総合防災訓練への出展や防災ガイドブック作成への参画を実現した。これにより、当事者としての発信や支援者との新たな繋がりが構築された。</p> <p>地域交流におけるインクルーシブ防災の質的向上</p> <p>2023年から実施してきた『防災×あそび』では、お互いを知るための交流時間が不足しているという反省があった。そのため、内容の見直し・プログラム再編を行なった。</p> <p>開催時間を半日から1日に延ばし、障害児者の負担に配慮しつつ、地域住民と学びや体験を通じて互いを知る時間を設けたことで、双方の満足度を高めることに成功した。こうした団体間の協力と地域住民との相互理解の深化は、共に暮らし助け合える関係づくりにおいて重要な役割を果たしている。</p> <p>なお、TEAM☆のらぼうさいのマークは草の根運動をしながら埼玉の地に根付いていくイメージで作成した。</p>
--	--



<p>実践内容・方法・成果</p> <p>これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。</p> <p>このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。</p> <p>実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。</p>	<p>実践1：埼玉県内の当事者団体ネットワークの構築</p> <p>【実践内容】</p> <p>障害のある人向けの防災啓発のニーズと、各当事者団体が個別に抱える課題（継続の難しさ、情報不足）を解消するために、埼玉県内の当事者団体による防災ネットワークを構築した。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 各団体への声かけ2. 災害医療に携わる看護師への参加を依頼3. 埼玉県医療的ケア児等支援センターへ連絡4. ネットワーク発起会を開き、ネットワークの名称を「TEAM☆のらぼうさい」に決定5. 定期的な会議を実施した（対面とオンラインを併用）
--	--



	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・当事者の声を行政へ届ける仕組みができた・埼玉県初となる医療的ケア児者および重度心身障害児者向けの防災ガイドブック作成に正式に参画し、公的な防災啓発資料に当事者の声を直接反映させることができた・災害ボランティア団体ネットワーク（彩の国会議）に加盟した・防災物資支援（タオルオクルプロジェクト）や啓発活動の連携が可能になった・九都県市総合防災訓練への出展した・団体間の孤立が解消し、継続的な協働体制が生まれた・行政・医療・福祉の横断的ネットワークが拡大した
--	---



・当事者視点の防災が社会的に認知され始めた





実践 2 : NPO ニモカカ福祉防災事業「防災×あそび」1日プログラムの実施

【実践内容】

地域住民と防災に関する学びや体験を通じた相互理解を目的とした1日プログラムを開発し、実施した。長時間活動の負担軽減のために、ゆとりあるタイムテーブル、交流を促すためにチームで行動できるプログラム内容、休憩スペースの確保、成人参加者のオムツ交換スペース設置、災害時を想定した短時間で完成するレシピと調理方法の検討（平時から備蓄や調理ができるもの）を意識して行った。

<具体的なプログラム内容>

- ・車椅子の高さで何が見える？（車椅子体験および介助の仕方体験）
- ・モシモランチをつくろう（防災食としてパスタの調理と実食、発電機とポータブル電気のデモンストレーション）※発電機は市の所有物
- ・避難所にあつたらいいな「おまもりふくろ」と「エアベッド」（避難所体験）
- ・段ボールジオラマ（飯能市の山間部地域のジオラマ作りと災害危険



エリアの確認)

- ・スタンプラリー (8つのミッション)
 1. 名前呼び (多様な返事の仕方を学ぶ)
 2. 公衆電話・災害伝言ダイヤル (日本公衆電話会)
 3. AED・心肺蘇生 (看護師スタッフ)
 4. 停電時の代替手段
 5. 断水時のトイレ対策
 6. 防災クイズ (日高特別支援学校卒業生ボランティアが担当)
 7. 地震マット YURETA (一般社団法人減災教育普及協会)
 8. 煙避難 (自作透明テント MIETA)

【方法】

対象：小学校以上 (未就学児のきょうだい児含む)、保護者の同伴をあり

定員：100名

参加費：1人200円 (保険代および昼食代として)

- ・ポスターを作成し、小学校と中学校および社会福祉協議会で掲示
- ・SNSにて、広報実施
- ・飯能市障害福祉課、飯能市危機管理課からの協力を得た
- ・市内の障害福祉事業所に対してボランティア協力を依頼した
- ・参加者アンケートとして、最後にどの体験が印象的だったかシール投票を行った。

【成果】

- ・障害のある子とない子が自然に協力し合う姿が見られた
- ・体験型の防災学習により、障害のある人もない人も満足度の高い結果が得られた
- ・埼玉県立日高特別支援学校で防災学習を受けた卒業生がボランティア参加し、これまで学んできたことを活かす場ができた
- ・行政と避難所環境改善について具体的な議論ができた
- ・参加者は少なかったが、1チーム5人程度、3～4チームくらいの



方が余裕もあり、気づきを共有しながら学びが深まるという新たな発見があった

・ 1日プログラムは想定よりも実際にはゆとりある運営ができたが、参加へのハードルが上がるデメリットもある。そのため、半日程度かつ交流が生まれやすいプログラムを継続していくことを検討したい。





	<p>本チャレンジの成果まとめ</p> <p>1.ネットワークとしての成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者・医療・福祉・行政が連携する新しい防災モデル構築 ・当事者の声が行政施策に反映される仕組みができた ・継続的な協働体制が生まれた <p>2.実践の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック作成、訓練参加、物資支援など多方面で成果 ・当事者団体でも無理なく参加できる支援方法を確立 ・地域の子どもたちが共に学ぶインクルーシブ防災教育を実現 ・避難所環境改善に向けた具体的な提案が行政と共有された <p>3.社会的インパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害のある人の防災」が地域の共通課題として認識され始めた ・当事者の学びが次世代へ継承される循環が生まれた ・他地域でも再現可能なモデルとして注目される内容となった <p>4.おわりに</p> <p>TEAM☆のらぼうさいの取り組みは、「当事者の声から始まる防災」を実現するための実践モデルである。本報告書が、他地域で同様の取り組みを始める際の参考となり、インクルーシブ防災の輪がさらに広がることを願っている。</p>
--	---

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1.【準備段階】<u>運営側の担当者を決める</u>際の工夫</p>	<p>福祉防災プロジェクトチームを結成する際、役割を決めた。活動内容を最初に確認し、LINE グループや Google ドライブで資料の共有を図ったことで多忙な中でも各自の都合の良い時間に仕事をできるようにした。</p>
<p>2.【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する</u>際の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業者との連絡会議でボランティア協力について呼びかけた。 ・ネットワーク構築については全くのゼロベースで仲間を集めたわけではなく、これまで“防災”に関心を持ち、さまざまなイベントや講演会などにバラバラに参加していた個



	<p>人であったり、そうした人からの紹介を通じて集めた。既存のイベントや講義などに参加することが、新たな地域活動を始めるきっかけになる。</p>
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	<p>二モカカクラブという任意団体から NPO 法人化し、その中で福祉防災事業を立ち上げた。</p>
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	<p>地域でのつながりを重要視しているため埼玉県飯能市および、TEAM☆のらぼうさいに加わっている各団体の活動エリアを軸とした。</p>
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u>	<p>福祉防災事業としての打ち合わせを適宜設けた。 TEAM☆のらぼうさいの定例会は原則月 1 回になるように調整した。</p>
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	<p>車椅子を使用する人がいるため打ち合わせは、バリアフリーが前提であることと共に、駐車場の確保、電車利用者のためにアクセスしやすい立地を検討した。実際には NPO 法人二モカカのカフェを利用した。また、埼玉県は広く移動が大変であること、体調変化が起こりやすい子の保護者が多いためオンライン環境は必須とした。</p>
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	<p>スペシャルニーズのある人の防災に関する資料を集め、TEAM☆のらぼうさいの定例会で検討会を行なった。</p>
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	<p>プロジェクトリーダーを中心にこれまでの実践例を元に計画し、関係団体に協力を仰いだ。モシモランチは web サイトから献立や調理方法を検討した。</p>
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	<p>防災×あそびのプログラムについては、適宜専門家に質問することができた。これは日頃から連絡を取りやすい関係が構築されていたからこそ考える。さらに、ガイドブックについては TEAM☆のらぼうさい内の医療関係者、埼玉県小児在宅医療支援研究会などに助言を求めた。これは県の医療的ケア児等支援センターと連携していたおかげで、円滑に進めることができた。</p>



11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	2に同じ
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	オンラインの活用。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u>	自己負担となる調理にかかる経費を抑えつつ、現実的な防災食を検討した。資料は多少の不便はありながらもデジタルを中心とし、紙資料を極力減らした。必要物品のうち、TEAM☆のらぼうさいのメンバーが所有しているものはお借りした。
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	プラン概要を発表した際に同じグループだった公益社団法人 日本青年会議所関東地区協議会防災意識向上委員会とお互いの取り組みを後日集まって共有した。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	
16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	
17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	NPO ニモカカの HP の他、Facebook や Instagram、LINE などの SNS で発信した。
18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	防災×あそび終了後、タイムスケジュールに各自書き出し、それを元に振り返り会を行った。

<p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p><u>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200字～600字程度で記載してください。</u></p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>・「防災×あそび」のコンテンツを県内の防災研修やイベントで使えるようにブラッシュアップしていく。今後「当事者の立場で、当事者の気持ち」にも焦点を当てた防災教材を制作予定である。</p> <p>・TEAM☆のらぼうさいの活動を継続し、災害時の支援体制の整備を検討していく。また、防災イベントを各団体で輪番にし、県内で同じようなプログラムを実施できるように調整していく。今年度作成した防災ガイドブックを元に彩の国会議等で、支援の必要な人たちの防災対策について</p>
--	--



	啓発できるようにする。
--	-------------

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど） これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。	当事者団体としてできることを模索する中で、埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク（通称：彩の国会議）に登録したことは先に記載したが、そこからの縁が繋がり、2月6・7日にTEAM☆のらぼうさいの取り組みを報告する予定である。
---	---

チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。

チャレンジプランを実践しての感想・想い チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。	<ul style="list-style-type: none">・オンライン開催だったので他のテーマ団体との交流がなかったのが残念でした。他のテーマの方と直接話すことでヒントや新たな連携が得られたかもしれないと思います。・悩みなどを共有するMLなどがあるといいないつも思っています。事務局に問い合わせをする、ということで解決できることもありますが、実践団体同士で相談したかったです。オンラインだとメールアドレスやラインの交換などできないので。
--	--